

野菜の実と葉っぱや花のにおいをくらべてみよう！

■プログラムの概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な栽培物（野菜）には色や形の他ににおいの違いがあることに気付く。 身近な栽培物に触れたりにおいを比べたりすることでそれらに親しみをもつ。 		
キーワード	食育、身近な自然		
対象	幼児～小学2年		
時間	40分	実施場所	室内・園庭
使用するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・トレイ ・ガーゼ ・ホワイトボード ・ホワイトボード用マーカー ・園庭で育てている野菜（ゴーヤ、ナス）の実と葉っぱと花 <p>※上記の他に、ピーマン、キュウリ、菜の花、大根、人参、ブロッコリーでも比較できる。（この時、大根の白い部分や人参のオレンジ色の部分は実ではないことや、ブロッコリーが花野菜であることに触れてもよい。）</p> <p>※においがはっきりしているものとそうでないものを使用するが、状況に応じて種類を増やしてもよい。</p>		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 導入 3. 葉っぱのにおい、実のにおい、花のにおい 順ににおいをかいで実、葉っぱ、花を組み合わせてみる。 4. ふりかえり 子どもたちの気付きや思いをホワイトボードに記し全体に示す。疑問点が生じたら、一緒に考える。 5. まとめ 実際に園庭に出てそれぞれの栽培物の実、葉っぱ、花を再度観察し感想を聞く。 <div style="text-align: right;"> <p>においが似ているな～</p>  </div>		

■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
5分	<p><あいさつ></p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の活動内容説明 (5～6人ずつのグループに分かれて行う) 約束 <ol style="list-style-type: none"> クイズの答えがわかってもしすぐに答えず、できるだけ手を挙げて指名されてから答える。 実、葉っぱ、花は口には入れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 園庭のプランターで栽培中の夏野菜に目を向けさせ、今までに収穫した時の様子を思い出させながら、今日の活動に興味を持たせる。 一部の子どもとのやりとりだけでの進行を防ぐ。
5分	<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なものから“におい”を意識させる。 “いいにおい”や“大好きなにおい”ってどんなにおい？」「どんな気持ちになる？」など、においについて触れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> においを意識できるよう身近にあるものを利用し導入してもよい。(例えば、園舎内に漂う給食室からのにおいで今日の献立をイメージさせる など)
10分	<p><葉っぱのにおい></p> <ul style="list-style-type: none"> 始めに野菜の葉っぱのみをトレイにのせて各テーブルに準備し、においをかがせて何の葉っぱかクイズ形式で聞いていく。 「①は何の葉っぱ？②は何の葉っぱ？」 答えをホワイトボードに記す。 さらに葉っぱをガーゼにくるみ、揉んでにおいをかいでみる。 (ガーゼに包んで揉むと葉っぱの汁がガーゼについてにおいがわかりやすい。) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>ゴーヤの葉</p> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ① </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>ナスの葉</p> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> ② </div> </div> </div> <p><トレイに番号を記しておく></p>	<ul style="list-style-type: none"> トレイに番号を記しておき、混合しないようにする。 子どもたちの答えをホワイトボードに記していく。(イラストを加えてもよい。) ガーゼは一人2枚準備しておく。ガーゼに包むときは2種類別々にくるんで揉むよう声かけする。 ナス：においからではナスであることがわかりにくい、子どもたちの「〇〇のにおいみたい」などの表現を丁寧に受け止める。 ゴーヤ：多くの子どもがゴーヤの葉っぱであることに気付くが、「甘いにおいかな？」「何のにおいと似ている？」などと聞きながら、言葉での表現を引き出す。
5分	<p><実のにおい></p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の実を別のトレイにのせてグループごとにテーブルに置き、実のにおいをかいでみる。 実のにおいからその葉っぱと組み合わせてみる…クイズ形式 葉っぱをのせたトレイに番号が記してあるのでそこに各グループで野菜の実をのせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で意見が分かれたら丁寧に対応する。 ホワイトボードに組み合わせを記していく。 実と葉っぱのにおいが似ているものと、そうでないものがあることに気づいたり、ゴーヤの花のにおいは実と違っていいにおいと感じたり、その他様々な気付きを整理していく。

時間	学習内容	指導上の留意点
	<p><花のにおい></p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の花をのせたトレイを各テーブルに置き、どんなにおいか感想を聞きながら実や葉っぱと組み合わせてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの気付きや思いをホワイトボードに記し、クラス全体に示す。
5分	<p><ふりかえり></p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の実、葉っぱ、花のにおいについて、子どもたちから出された気付きや思い（言葉や表現）をふりかえる。 一人ひとりにおいを感じる力を持っていることに触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちからの気付きや思いを整理しながら、野菜（栽培物）への親しみの気持ちが深まるようにする。 状況に応じて簡単に葉っぱの役割に触れてみてよい。 キュウリなど、他の野菜にも目を向けさせてみる。
10分	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に園庭の野菜を見にいき、子どもたちに野菜の実、葉っぱ、花を確認させてみる。 栽培物の実、葉っぱ、花にはそれぞれにおいがあることや自分たちのにおいを感じる力について、子どもたちに感想を聞く。 片づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ゴーヤの花には蜂が寄ってきていることがあるので注意するとともに、なぜ蜂が寄ってくるのか考えさせてみるのもよい。 使用した葉っぱは土のところに戻す。 実は収穫物として保護者に展示する。（葉っぱはすぐにしおれてしまうが、可能であれば実と共に展示してもよい。）

■使用するもの

物品名	数量	備考
トレイ	グループ数×4	野菜の葉っぱの種類ごとにトレーを分ける。画用紙などでも代用可。 葉っぱ用…グループ数×2、実・花用…グループ数×1
野菜の葉っぱ	人数分	ゴーヤ、ナスの葉っぱ
野菜の実	人数分	ゴーヤ、ナスの実（人数分の確保が難しいときは切って小分けも可）
野菜の花	グループ数×2	ゴーヤ、ナスの花
ガーゼの布	人数分×2	20cm×20cmくらいの大きさ
ホワイトボード	大きめの物×2	
ボード用マーカー	必要数	
おしぼり	グループ数×2	必要に応じて使用
その他の野菜		においがわかりづらい野菜として オクラ、きぬさや、カリフラワー など

■実施にあたって留意する点

- 野菜の実とその葉っぱのにおいが同じものとそうでないものがあることの不思議さに気付くよう、においクイズは野菜の葉っぱから始めたが、状況に応じて野菜の実から始めてもよい。
- 一人一人の思いや気付きには知識面での差があるので丁寧に受け止め認めていき、表現することが楽しくなるよう配慮する。
- 初めは2種類くらいにし、様子を見ながら種類を増やしてもよい。
- 季節により別の野菜にするなど、子どもたちが比べてみたい野菜や植物を準備するのもよい。
- キュウリの葉っぱは手で触れると痛みを感じるので初めからガーゼで包むなどの配慮が必要。
- 状況に合わせて野菜の葉っぱの役割や、野菜の栄養に触れたりしてもよい。
- 実際に園庭に野菜の様子を見にいったから、葉っぱの形をかたどって描いてみたり、花の押し花などの活動に展開して、親しみの気持ちを深めていくなど、クラスの状況に合わせて行ってほしい。子どもたちが栽培物に親しみがもて、実の収穫だけではなく栽培物の成長を日々楽しみに待ち、他の植物にも興味が広がるよう期待する。
- 野菜の実、葉っぱ、花は口に入れないように注意する。
- ホワイトボードに子どもたちの思いや気付きを記す（イラストを加えてもよい）。

